

防災・減災対策と地域活性化のための道路整備について

四 国 部 会 提 出

近年、全国各地で頻発する台風や豪雨等による自然災害により、道路の冠水、橋梁の流失、鉄道の運休などが相次ぎ、広域的な避難や緊急輸送体制の確保が大きな課題となっている。

愛媛県南予地方においても、平成 30 年の西日本豪雨では、幹線道路の寸断や公共交通機関の停止により、住民の避難や救急搬送、緊急物資輸送などに多大な支障が生じており、大規模災害発生時にも機能し続ける強靱な交通インフラの整備は、南予地域全体に共通する喫緊かつ極めて重要な課題となっている。

中でも、高速道路ネットワークは、地域経済の活性化や生産性の向上のみならず、災害時における緊急輸送路、いわば「命の道」としての機能を担っており、その信頼性と強靱性の確保が求められている。

現在、松山自動車道においては、伊予 I C～大洲 I C間で4車線化工事が進められ、信頼性の高いネットワーク構築に向けた取組が着実に進行しているが、南海トラフ地震などの大規模災害や万が一の原発事故、激甚化・頻発化する豪雨災害等への対応力を一層高めるためには、「松山 I C～大洲 I C」間での早期4車線化、及び新たな国土軸としての役割を担う大洲・八幡浜自動車道の早期整備が不可欠である。

この区間の整備は、住民の安全安心を確保するとともに、大規模災害時の広域的な避難ルート確保、緊急輸送体制の強化に直結する極めて重要な事業であり、その早期実現に向けては、資材価格の高騰等の影響を適切に反映した予算の確保が必要である。

また、高速道路ネットワークをはじめとした道路網の地方部への着実な整備は、「人」と「仕事」の好循環を生み出し、地域の個性を生かしたまちづくりや地方創生の推進に直結するものであり、「四国 8 の字ネットワーク」の早期完成は、南予地域はもとより、四国全体においても、広域連携や観光振興、災害対応能力の飛躍的な向上が期待される。

こうした多様なストック効果を一日も早く南予地方にもたらすためには、事業の確実な推進と、それを支える安定的かつ十分な道路関係予算の確保が不可欠であることから、以下の事項について取り組むよう強く要望する。

記

- 1 松山自動車道「松山 I C～大洲 I C」間の早期全線4車線化
- 2 地域高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」の整備促進

- 3 ミッシングリンクの解消による「四国8の字ネットワーク」の早期完成
- 4 地方における道路網整備の着実な推進
- 5 新たな財源確保等による道路関係予算の安定的かつ十分な確保